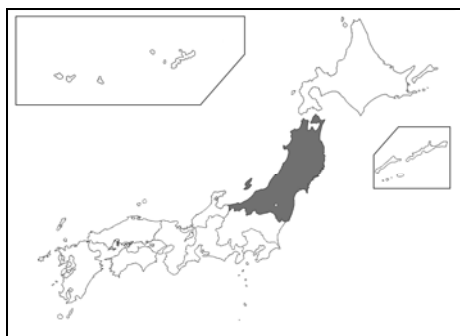


(2) 東北



東北地域では、景気は弱さがみられるものの、緩やかな回復基調が続いている。

- ・ 鉱工業生産は弱含んでいる。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きが続いているものの、足踏みがみられる。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(―は上方に変更、―は下方に変更)

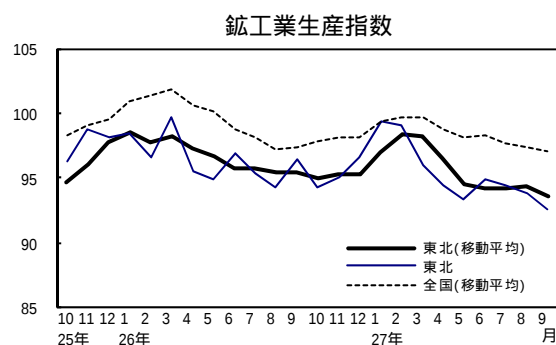
前回調査からの主要変更点

	前回(平成27年8月)	今回(平成27年11月)	
景況判断	緩やかな回復基調が続いているが、一部に弱さ	弱さがみられるものの、緩やかな回復基調	↓
鉱工業生産	おおむね横ばい	弱含み	↓
住宅建設	増加	大幅に増加	↑

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は、弱含んでいる。

7～9月期には、電子部品・デバイスは、コネクタが依然として高水準を維持しているものの、前期よりもやや弱い動きとなった影響などから減少した。はん用・生産用・業務用機械は、半導体製造装置がおおむね横ばい圏内の動きとなった。食料品・たばこは、酒類が減少した。情報通信機械は、デスクトップ型パソコンが低水準であった前期の反動で増加した。輸送機械は、自動車用エンジンが減少した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比)(%)

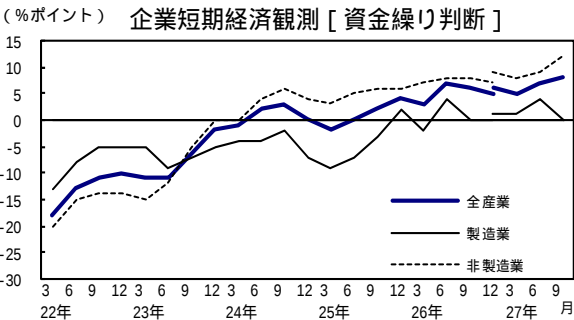
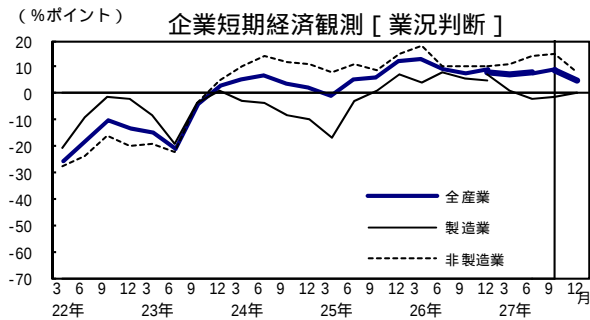
	付加価値 ウェイト	生産				
		4～6 月期	7～9 月期	7月	8月	9月
電子部品・デバイス	16.9	0.8	▲4.5	▲3.5	▲0.4	▲4.0
はん用・生産用・業務用機械	14.7	▲5.4	2.5	▲0.2	▲4.2	4.2
食料品・たばこ	10.6	1.0	▲9.1	▲1.8	▲0.3	▲8.2
情報通信機械	9.2	▲18.5	6.4	3.0	▲3.8	▲0.3
輸送機械	8.3	▲4.9	▲0.6	▲0.1	1.4	▲1.3
鉱工業	100.0	▲4.0	▲0.6	▲0.4	▲0.7	▲1.3

(備考) 1. 22年=100、季節調整値。東北の最新月は速報値。
2. 全国及び東北の太線は後方3か月移動平均。

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
2. 7～9月期、9月は速報値。

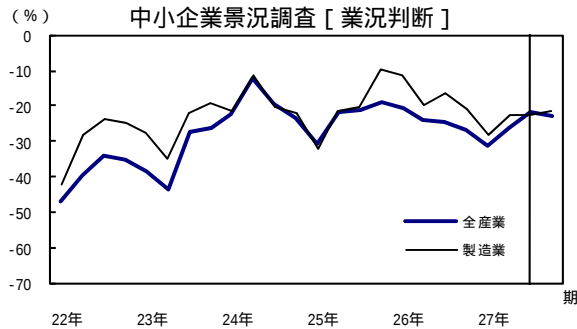
(2) 企業動向の業況判断は、「良い」超幅が、資金繰り判断は「楽である」超幅がそれぞれ横ばいとなっている。

企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」 - 「悪い」回答者数構成比。27年12月は予測。
26年12月は新・旧基準を併記。

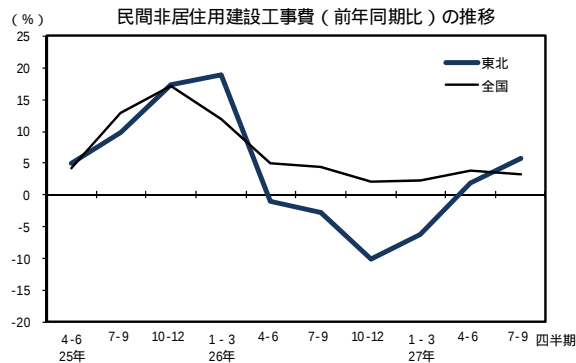
(備考)「楽である」 - 「苦しい」回答者数構成比。
26年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」 - 「悪化」回答者数構成比。27年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査 (10 月) [企業動向関連 (現状)]
「製造業の2次下請において、コストダウンの要請が厳しくなっている (経営コンサルタント) 」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は、増加している。



企業短期経済観測調査 [設備投資 (9 月調査)]

(前年度比、 %)

	26年度実績	27年度計画
全産業	14.9	▲8.0(0.5)
製造業	29.3	▲3.0(1.5)
非製造業	2.5	▲13.4(▲0.6)

(備考) () は前回 (6 月) 調査比修正率。

2. 需要の動向

- (1) 個人消費は、持ち直しの動きが続いているものの、足踏みがみられる。

地域別消費総合指数（RDEI（消費））

7月は前月比0.7%増、8月は同0.1%増、9月は同0.6%増となった。

百貨店・スーパー販売額

百貨店は、7月は、セール品がふるわず衣料品は前年を下回った。飲食料品は、お中元がふるわず前年を下回った。その他の商品は、高額品や化粧品に動きがみられ前年を上回った。

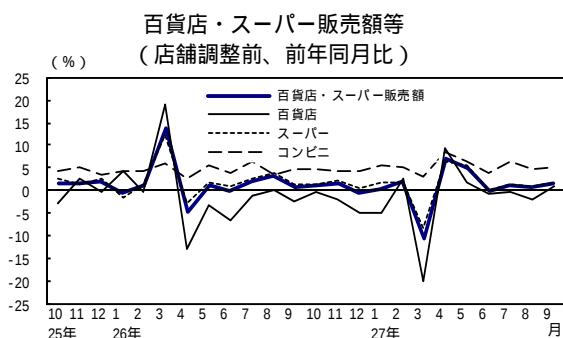
8月は、セール品などの夏物衣料がふるわず衣料品は前年を下回った。飲食料品は、精肉、野菜などがふるわず前年を下回った。9月は、秋物衣料全般がふるわず衣料品は前年を下回った。飲食料品は、精肉、鮮魚、野菜に動きがみられ前年を上回った。

スーパーは、衣料品、飲食料品ともに前年を上回った。

景気ウォッチャー調査（10月）[家計動向関連（現状）]

東北地域の家計動向関連DIは、44.9となり前月より0.7ポイント低下した。

「ほとんどの客が短距離の利用であり、メーターを確認して目的地直前で停車の指示がでる。このような状態がずっと続いている（タクシー運転手）」など、「変わらない」とする回答が増加した。

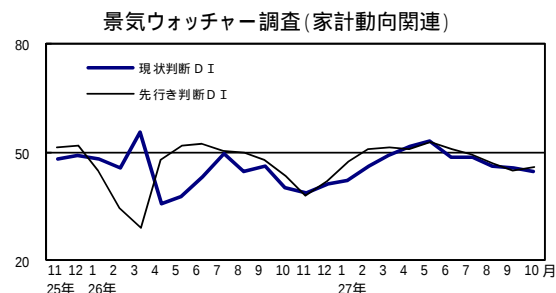
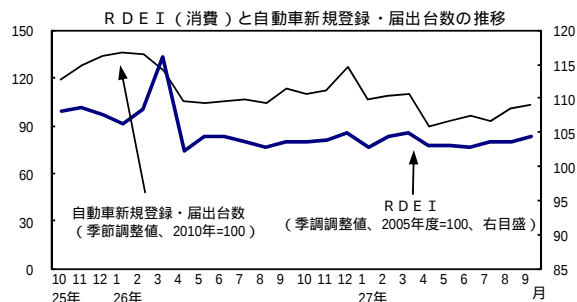


	27年7-9月	27年7月	8月	9月
RDEI（消費*1）	0.7	0.7	0.1	0.6
百貨店・スーパー(*2)	1.1	1.1	0.6	1.7
百貨店(*2)	▲0.4	▲0.3	▲1.9	0.9
スーパー(*2)	1.4	1.4	1.1	1.9
コンビニ(*2)	5.4	6.3	4.6	5.3
乗用車(*3)	▲9.0	▲12.3	▲4.1	▲9.2
(季節調整値)(*3)	6.0	▲3.8	7.8	2.7

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比(%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比(%)

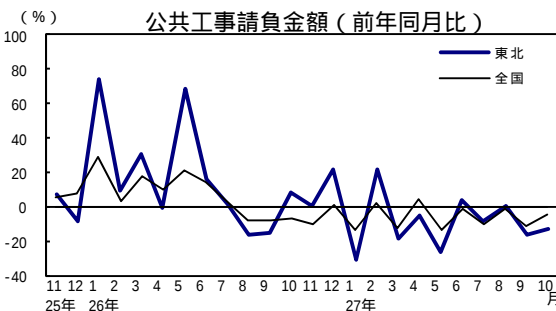
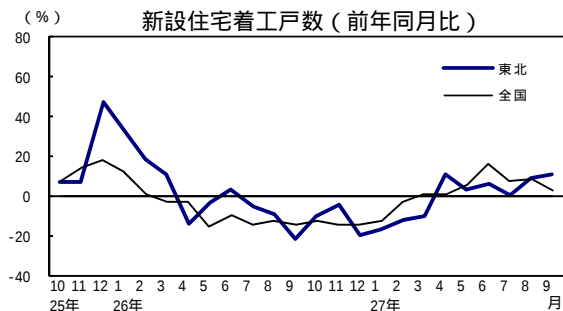
3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))



- (2) 住宅建設は、大幅に増加している。

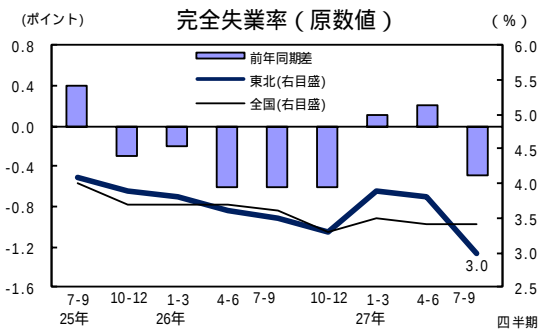
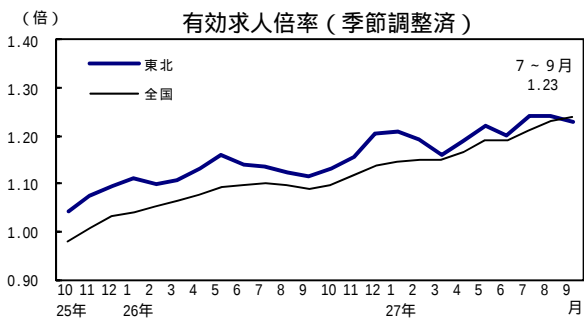
持家、貸家が前年を上回ったことから、全体では大幅に増加している。

- (3) 公共投資は、27年度累計でみると前年度を下回っている。



3. 雇用情勢等

- (1) 雇用情勢は、着実に改善している。
有効求人倍率及び完全失業率
有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。

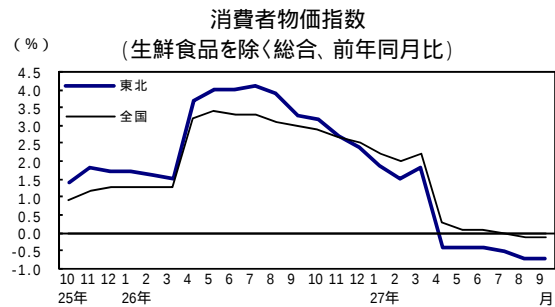


景気ウォッチャー調査（10月）[雇用関連（現状）]
「9～10月にかけても、求人は出しているが応募者がほとんどこないという人手不足の状況が続いている（職業安定所）」などの回答がみられた。

- (2) 企業倒産は、件数は大幅に減少、負債総額は減少している。
(3) 消費者物価指数は、前年比の下落幅が拡大している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	26年10-12月	27年1-3月	4-6月	7-9月	27年10月
倒産件数	97	117	109	83	40
(前年比)	▲19.2	0.0	▲1.8	▲25.9	42.9
負債総額	196	247	173	173	124
(前年比)	▲10.2	58.3	▲13.6	▲47.3	101.9



- 景気ウォッチャー調査（10月）[合計（特徴的な判断理由）]
<現状>
・復興需要や定年退職者の増加などを背景に人手不足である企業は多いが、求人側と求職側のミスマッチが生じている（新聞社[求人広告]）。
<先行き>
・コスト削減の要求が多く、原材料費の値上げ分を製品価格に転嫁できないとの話を聞いている。そのため、建設業以外は厳しいのではないかと（通信会社）。

